

坪井 珍彦	龍田 耕藏	鈴木 敏男	塩見 一郎	笹倉 義信	斎藤 満	久保井 昭	岡田 治	内橋 久夫
出口 喜兵衛	伊達 文治	隅野 博行	柴田 虎雄	佐藤 慶生	坂田 忠好	小坂 忠生	岡橋 秀夫	大隅 義郎
傳長 義雄	田中 彌生	立花 脩	杉本 圭作	沢田 太郎	桜井 喜久夫	小松 茂	岡本 清	大橋 茂次

(公財)神戸大学六甲台後援会だより (38)

「人事が選ぶ大学ランキング」の示唆

この表題は日本経済新聞の6月16日号に掲載されたものです。従って皆さんも既にご覧になったことでしょう。これは、今年の3月17日から約1カ月に亘って、日経HRがインターネットで3540社を対象にして調査、433社の回答を取りまとめたものでした。内容は、昨年4月から本年3月までに採用実績のある大学を、人数の多い順に10社挙げて貰い、それぞれについて、各大学の学生が次の幾つかのイメージとして当てはまるものを選んで貰って、項目ごとに集計、得点化したものだということになっています。行動派、対人力、知力・学力、独創性、専門性、仕事力、就職支援などがそれです。神戸大学は、各イ

若住 昇	森 茂也	前田 昌宏	服部 大助	西澤 信雄	灘上 哲之助	十都 重雄
	安田 嘉雄	松本 暢一	兵庫 武夫	橋本 英一	鳴海 榮	富岡 孝利
	柳原 仁哉	宮田 晴光	深瀬 良一	服部 実	新野 幸次郎	中野 敏則

(一般社団法人凌霄会事務局)

メージごとのランキングでは5位までに入っていません。しかし、総合ランキングでは、京都大学に次いで第2位になります。1位の京都大学が「知力・学力」と「独創性」が2位に入るなど「対人力」以外ではほぼ満遍なく得点しているのとは違っています。それでも、神戸大学も京都大学同様に論理思考力や高い教養などをはじめ満遍なく評価されたと説明されています。このランキングでは、3位以下が大阪市立大学、筑波大学、一橋大学、徳島大学、早稲田大学、慶應義塾大学、九州大学、名古屋大学、東京工業大学、大阪大学、関西学院大学、工学院大学、明治大学、兵庫県立大学、同志社大学、千葉大学、東京都立大学、国士舘大学となつて、東京大学は、「独創性」や「行動派」などでのほか、個性やコミュニケーション能力などで京都大学に大きな差がついたということになっています。この種のランキングは、他にも色々あり、同じところのランキングでも、年度によってかなり変化しています。従つてこのラン

キングを固定化して考えることは出来ません。しかし、大学によつては、このランキングで一喜一憂しておられるようです。私どもも単純に2位だからまだよかつたと考えてはいけません。

日本全国の大学は今、重大な転機を迎えています。私学の45%近くが、定員不足になっているのです。また、定員は満たしている大学間でも、大学の施設、教員数、その研究・教育能力など格段の格差があります。受験人口数の減少と大学生に対する評価基準の変化につれて、また、何よりも大学受験のグローバル化などもあつて、大学のランキングは大きく変化することが考えられます。しかも、例えば旧帝大と神戸大学との格差の一つに挙げられている自然科学系研究所や教員数の格差などは、これから何年かかつてもほとんど埋めることが出来ません。そういう状態の中で大学ランキングを上昇させる可能性があるのは教育です。

言うまでもなく、旧帝大のように自然科学系の研究所がなく、研究者数が少ないからといって、大学の研究能力が全体的に劣っているわけではありません。少ない研究者の中に世界的な研究能力を持つ教員がおられることもあり、そういう方々を支援することで大学ランキングを引き上げることも出来ます。しかし、ともすれば、個々の先生方の評価が研究能力に限定され、その人間育成能力に教育力に向けられない傾向があることは考え直さなければなりません。21世紀に必要なものは、単にどれだけ豊富な知識を持つていくのではなく、それらの活知識を、どれだけ人に与え、社会を発展させるものに変える能力を持つた人を育てるのです。

つい最近ある雑誌で、元一橋大学におられ、今はハーバードのビジネス・スクールの教授になつておられる竹内弘高教授が、アメリカの大学の教育に比べて日本の大学教育の欠けていることを、率直に述べておられます。最近MOOCなどが示していますように、知識だけなら世界の最高レベルの授業が修得できるようになりました。しかし、わが官立神戸高商の初代校長・水島鏡也先生が象徴的なように、本当に活力があり、強い感受性と問題点解明の知性と問題解決の勇氣を持った学生を育てようとすることなく、ただ専門知識を伝えるだけで満足することは、許されなくなつていふように思います。水島先生ご自身は、いかに品行方正でも情のない人は駄目と言われた儒学者・廣瀬淡窓に私淑し、自ら漢詩を読み詩情を楽しんでおられました。更に、学生諸君に、かつて一橋の専攻部にしかなかつたいわゆるゼミ制度を導入し、また学生諸君を出身地域、専攻別に組織し、それに教職員までも参加した友団をつくつて「葺合村塾」的学風をつくりあげ、明治末期・大正・昭和初期のわが国の卓越した人材を育成してこられたのです。今回の日本経済新聞社の記事を読んで、改めて母校のこれからの想いました。

今期も、多くの皆さんからご寄附を頂きありがとうございます。

毎期皆さんの温かい母校支援のお気持ちに事務局は感激しています。今期もまた実に多くの方々から激励のお気持ちを受け取ることが出来ました。今迄、〇〇会卒業何十周年記念というような形で多数の方が、ご寄附を頂いた場合、そのお名前をゴ

チで印刷しますと、まるで黒塗りのようになってしまいますので、前号ではこの寄附欄では取り上げずクラス会欄で報告し、お礼を申し上げることにさせて頂いていました。しかし、これも寄附を頂いた皆さんには失礼になるのでどうしようかと考えた結果、今回からはゴチで列記するのを止めて印刷することになりました。その点はどうか、ご了承ください。今回は、最初に卒業年次別に報告をさせて頂きます。まず、河合康美様(昭26) 50万円、鶴浩一様(昭32・経) 5万円、榊田高秀様(昭32・経) 3万円、段野治雄様(昭40・経) 10万円、平松秀則様(昭42・経営) 10万円、安藤幹雄様(昭45・法) 10万円、からはじめ、以下はすべて昭和34年と昭和39年卒ですからお名前の下に卒業年次の個別記入は止め、学部名だけとし、寄附金額別に列記させて頂きます。昭和34年では5千円が木村正様(経営)、高宮育夫様(経営)、寺岡秀展様(法)、田尻眞啓様(経営)の4名、1万円が井谷卓司様(経営)、井上朗様(経営)、池上幹康様(経)、櫻井裕英様(法)、筏裕様(経営)、木崎晃様(経)、砂田安弘様(経)の7名のほかに、楠晴夫様(経) 2万円、寺井洋一様(経営) 3万円、駒井迪之様(経) 5万円、岡村二郎様(法) 10万円、山邑陽一様(法) 10万円、立脇和夫様(経営) 10万円、上竹原康宏様(経営) 40万円でした。

次に昭和39年卒では、寄附金額3千円は、則安基直様(法)、山本正人様(法)、柁木久和様(経)、太田紘一様(法)、今枝幹隆様(経営)、宇高洋典様(経営)、鷺尾孝二様(経)、多田和男様(経)、菊田政治様(経営)、原俊雄様(法)、神能忠明様(法)、堀口和彦様(法)、西岡時月様(経)、吉原英樹様(経)

営)、加登住積様(経)の15名、5千円は馬場克之様(経)、鈴木文雄様(経)、海貝紀彦様(経営)、福光功様(法)の4名、1万円は、難波孝信様(経)、新郷勝三様(経営)、井詰潔様(経)、伏原勝義様(経営)、有田栄一様(法)、播磨四郎様(経営)、平尾通泰様(法)、海老本侃男様(経)、坂本憲三様(経)、梶原廣様(経営)、加藤昇一様(経営)、廣渡栄右様(経営)、尾崎政次様(法)、片山秀雄様(経)、飯田忠郎様(経営)、上杉強様(経営)、河下浩信様(経営)、佐々木輝夫様(経営)、須田巖様(経営)、山崎英昭様(経)、矢野紘夫様(経)、菅原勝吉様(経)、鈴木正弥様(経)の23名でした。次に、金額は色々ですので、最初に掲げたようにお名前と金額を別々に報告させて頂きますと、春名美典様(経) 2万円、葛巻次郎様(経) 2.5万円、山本雅俊様(経) 3万円、熊谷清様(経営) 3万円、吉川英昭様(経営) 3万円、岡田俊一様(経営) 5万円の皆さんでした。

今月の「凌霜」誌の原稿締切日までにご寄附頂き報告の出来るものは以上のとおりです。ところが、その後も相次いでご寄附を受けさせて頂いているものもかなりあり、しかもありがたいことに、今後も暫く続くようです。つきましては、そのあと到着した分については次号で掲載させて頂きます。ご了承下さい。こういうことになりましたのは、それぞれの会の世話役にお聞きしますと、昭和34年卒の三四会の皆さんはこの10月25日に卒業55周年を記念してお集まりになり、また昭和39年卒の12回生の皆さんも卒業50周年を記念して同じく10月25日にお集まりになると決めて、この度募金計画を樹立されたもののように

です。

お蔭さまで、今回ご報告できるのは225万円で、このご寄附をお願いするようになった平成16年からは合計2億9934万余円にもなりました。皆さんのご配慮に衷心よりお礼申し上げます。

毎回申し上げておりますように、寄附金の送り先は左記の通りです。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合（銀行からの通知がどうしても遅くなり、領収書等のご送付が遅れる可能性がありますので、是非ご送金のことを事務局にご一報ください）

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

水島鍬也先生生誕150年記念事業実行委員会事務局だより

今年には神戸高等商業学校の初代校長である水島鍬也先生の生誕150年にあたります。そこでこの機会に改めて水島先生の残された足跡を知り、教育者としての姿勢を振り返ることにより、わが母校の今後の飛躍につなげたいとの思いで記念事業実行委員会を立ち上げています。

記念事業の第1弾として、5月17日（土）に先生の生誕地である大分県中津市で「神戸大学in中津」を開催し、新野幸次郎・元学長による記念講演会には学長を始め大学関係者や全国各地からの卒業生に加え、地元中津市長や市民の皆さんにも参加いただき総勢約200名と満員の盛況となりました。そのあと開

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: rokkodaifund@kobe-u.com

催された懇親会では各地から参加した卒業生らが和やかで賑やかな団欒のひとつきを過ごしました（詳細は「凌霜」第402号）。

「神戸大学in中津」の会計報告は後述の通りですが、本会の開催にあたり地元大分県在住の高橋靖周様（33経）、徳永淳一様（54営）にも実行委員に加わっていただき、大変お世話になりました。特に地元での開催PR活動のため新聞広告をいたしました。その費用81万円は、地元の九州6支部及び下関支部の会員の皆さんと、高橋様の同級生である「さんさん会」（33年卒）有志の皆さんの寄附で賄うことができました。また懇親